2026年度：4年生用 ゼミコースアウトライン（川原功司）

ゼミタイトル: 言語コミュニケーション（間投詞,「感謝・謝罪」と「嘘」,謬説？ 事実？）

授業概要:

- A: このゼミでは何をするんですか？
- B: ええと，言語コミュニケーションですね．/??あのー，言語コミュニケーションですね.

このゼミでは，言語を使用したコミュニケーションについて扱いますが，書き言葉では「あのー」,「ええと」とか書かないのはなんでなんでしょうね．他にも，相手の言っていることが聞こえなかったり分からなかったりすると，英語では Huh?と聞き返しますが，日本語では「え？」でしょうか．アフリカやオーストラリア，南米などでは a?が多いのです．何か共通点がありそうですよ．こういった間投詞には，言語コミュニケーション上の重要な役割がありそうです．おもしろそうですね.

人に優しくしてもらったり，何かを手伝ってもらったりすると感謝の言葉を口にしたくなります．「ありがとう」も Thank you も Merci も感謝の言葉とされます．場合によっては「すみません」という謝罪の言葉が同じ機能を果たすことがあります．Brown and Levinson (1987) によれば，感謝と謝罪は Face Threatening Act という同等の行為に分類できるという分析もあり，両者の共通点を探ることもできそうです．しかしながら，こういった感謝という行為を口にしない人たちもいるようなのです．奥野 (2023) によれば，ボルネオ島のプナンと呼ばれる人々には，感謝の言葉も謝罪の言葉もないということが報告されています.

また,「嘘」とはどういう行為なのでしょうか．大辞泉によれば，(1)「事実でないこと．また，人をだますために言う，事実とは違う言葉，偽り」，(2)「正しくないこと，誤り」という説明があります．しかし，事実であると思っていたのに間違ったことを言ってしまったり，事情が変わったせいで間違ったことになることもあります．また，話し手が事実ではないと思っていたのに，聞き手が事実だと解釈したり，その逆の場合もあります．そのような場合，嘘が嘘であるためにはどのような適切性条件が満たされないといけないのでしょうか．一緒に考えていきましょう.

他にも,「人は見た目が 9 割」話の内容/言葉の重要性は 7%，日本語圏はハイコンテクストで，英語圏はローコンテクストといったコミュニケーションに纏わる神話がありますが，これらの妥当性や謬説がなぜ広がるのかについても考えていこうと思います.

授業の形式，課題・成績評価基準: 受講者による発表とディスカッションが中心です．授業に対する貢献度と発表資料が主な評価基準です.